

アナログ・ディスクのコンディション維持

まず、最初にお話ししておきたいことですが、アナログ・ディスク再生はカートリッジの針先で音の信号を拾うので、レコードの音溝は磨耗し、針先もやがて磨り減ってしまうかどうかということなのです。

通常の使用状況では、それはあまり気にしなくてよいと思われます。

例えばディスク側ですが、もし磨耗すれば、音溝が削り取られた結果として「粉」が発生するはずですが。カートリッジの針の周辺を見ますと、確かに微量の粉は付着していますが、10時間程度カートリッジを使用してもその程度、気になるような量ではありません。

ちなみに、レコード針が10時間で一体どの位の距離をトレースするのか計算してみます。

ディスクの音溝の平均直径を20cm、ディスクの片面の収録時間を20分とします。

ディスクの回転数は毎分 $33\frac{1}{3}$ ですから、概ね12.3kmとなります。

特定のディスクの特定の曲を10時間繰り返して聴くことはまずありませんから、実質的に音溝の特定の部分が磨耗するとは考えにくいわけです。

結論として、アナログ・ディスクはむしろどんどん聴くべしということになります。

最も注意しなければならないこと：

これはイチにも二にもディスクに傷を付けないことです。これだけは「絶対に」と言っていると思われます。

特にカートリッジの針先でディスクに傷を付けないように「万全の」注意をして下さい。

ディスクに針先が乗った状態でプレーヤーに振動を与えると針先が飛びます。

プレーヤーについて何かしようとする場合、リフターで針先を上げておく習慣をつけておけばよいのではないのでしょうか。

アナログ・ディスクと音楽CDの決定的な違いですが、アナログ・ディスクに付いた傷は修復出来ません。傷の音信号がそのままシステムへ送られます。これは音の良さと裏腹の関係です。

音楽CDの場合は表面に傷が付いても、ある限度内であれば、強力な誤り訂正の仕組みが読取エラーをカバーしてくれます。これは本当にたいしたものです。

音楽CDに慣れてしていると「ついうっかり」という事態になります。

ディスクのクリーニング：

新品のディスクといえど、クリーニングすると効果がある場合があります。

中古ディスクについては、これはもう必ずクリーニングしてから聴くべきです。音質上の問題をかなり解消出来るからですが、カートリッジはディスクに比べて相対的に高価です

から、これを保護するためにも必要です。

以上は「フル・クリーニング」とでもいいますか、丸洗いして乾燥させるというようなイメージのクリーニングです。

ディスク表面の埃を除去するような「クリーナー」を使用してのクリーニングはディスクを使用する度にやるべきです。

ディスクの保管方法：

これは「平積み」に限ります。レコード収集家でなければ、必要なディスクはせいぜい数十枚、十分平積みが可能です。

その理由ですが、盤の反り対策でもありますし、ジャケットの保護対策でもあります。

アナログ・ディスクのコンディションを維持するためには、音溝に刻み込まれた音楽を頻繁に演奏すること、それを通じて「ディスクと親しくなる」ことが一番だろうと思われます。

何しろ、アナログ・ディスク再生はメカニカルな仕組みなので、周囲の温湿度の影響も受けるでしょうし、そうした点はピアノのようなアコースティック楽器と似ています。

以上